

次世代郊外まちづくり リーディング・プロジェクト(2016)を策定

～郊外住宅地の再生のための「コミュニティ拠点」の実現に向けた取組みが始まります！

横浜市と東京急行電鉄株式会社（以下「東急電鉄」という。）は、平成24年4月に締結した「次世代郊外まちづくり」の推進に関する協定に基づき、産・官・学・民が連携してまちづくりに取り組んでいくためのビジョン「次世代郊外まちづくり基本構想2013」を平成25年6月に発表しました。また、この実行計画である「リーディング・プロジェクト（2013・2014・2015）」を策定し、これまでモデル地区（東急田園都市線たまプラーザ駅北側地区）を中心に様々な取組みを進めてきました。

今般、リーディング・プロジェクト（2015）を継続・拡充した『リーディング・プロジェクト（2016）』を策定し、モデル地区内において、新たにコミュニティ拠点（「次世代郊外まちづくり」の活動の情報発信や活動拠点となる「場」）の実現に向けた取組みに着手します。

横浜市と東急電鉄の協定最終年度を迎え、「次世代郊外まちづくり」のこれまでの取組みを具現化させるとともに、郊外住宅地の再生に向けた活動をこれまで以上に推進していきます。

『リーディング・プロジェクト（2016）』

基本構想に基づく6つの実行計画

1. 地域のエリアマネジメント・エネルギーマネジメントに向けた仕組みづくり

地域に関わる多様な組織・グループがともにまちづくりに取り組めるよう、様々な主体による活動のネットワーク化を進めるとともに、新エネルギーなどを活用した自立分散型エネルギー拠点の検討などを通じて、既成市街地でのスマートコミュニティづくりを推進します。

2. まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり

誰もが参加できる子育てしやすいまちを目指し、保育・子育てに関わる様々な主体が連携・協働していくための顔の見える場づくりを進めます。

3. 快適で健康な生活を支えるまちの仕組みづくり

誰もが安心して快適に住み続けられるまちを目指し、健康づくりにつながる取り組みを進めるとともに、健康に生活を営めるまちの仕組みづくりを推進します。

4. 「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクトの推進

ー社宅・住宅団地等の再生とコミュニティ拠点の実現ー

コミュニティ・リビング（※別紙2参照）の実現を目指し、モデル地区内を中心に社宅・住宅団地等の再開発について、民間事業者との連携・協働による取組みを進めるとともに、次世代郊外まちづくりの拠点整備を進めます。

5. 商店街と連携したまちの賑わいづくり

「コミュニティ・リビング」モデル・プロジェクトの推進を契機に、周辺商店街と連携したまちの賑わいづくりを進めます。

6. 次世代のまちづくりを担う人材育成の推進

地域や企業と連携し、公的資源をこれまで以上に有効に活用するための仕組みづくりを進めるとともに、シビック・プライドの醸成を通じて、次世代のまちづくりを担う人材の育成を進めます。

『リーディング・プロジェクト（２０１５）』の取組成果、ならびに『コミュニティ・リビング』については、別紙のとおりです。

以 上

【別紙 1】 リーディング・プロジェクト（2015）の取組成果

平成27年8月、青葉公会堂で「次世代郊外まちづくりフォーラム」を開催し、400名近い方々にご参加いただいた他、会場内に設けた住民創発プロジェクトの紹介コーナーでは、たくさんの方が意見交換をする光景が見られました。

また、平成28年3月には、地域連携プログラムの集大成として、モデル地区内にある美しが丘中学校の生徒が、「明日のわがまち」について発表するなど、これまで取り組んできた様々な活動がモデル地区内外で進化した一年となりました。

1. 地域のエリアマネジメントに向けた仕組みづくり

平成25年度にスタートした住民創発プロジェクトの各団体は、現在も自主的に活動を継続しています。

「たまプラーザ情報連絡会」等を通じて地域活動の情報共有が図られ、住民創発プロジェクトメンバーによる地域活動への参加が進むなど、エリアマネジメントに向けた仕組みづくりが動き出しました。



「次世代郊外まちづくりフォーラム」の様子

2. 地域のエネルギーマネジメントに向けた仕組みづくり

既成市街地でのスマートコミュニティづくりを目指し、水素を活用した自立分散型エネルギー拠点の検討を行いました。

また、地域包括ケアシステム推進部会と連携した電気自動車のカーシェアの取組みを検討しました。

平成25年からの取組み成果やこれまでの検討結果を踏まえ、地域のエネルギーマネジメントに向けた検討を行いました。

3. まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり

モデル地区において、保育・教育・子育て支援等に携わる多様な主体が参画した「子ども・子育てタウンミーティング」を4回開催しました。より子育てしやすいまちづくりの実現を目指し、保育・子育てに関わる様々な主体が連携・協働していくための顔の見える場づくりの検討を進めました。



子ども・子育てタウンミーティングの様子

4. 地域包括ケアシステム「あおばモデル」パイロット・プロジェクト

青葉区における地域包括ケアシステムの構築に向け、青葉区役所とともに、医療・介護関係者と共同し、医療・介護の多職種の連携システム「あおばモデル」を推進しました。

5. 住宅団地・社宅等の再生と商店街と連携したまちの賑わいづくり

－ 「コミュニティ・リビング」モデルプロジェクトの実現 －

青葉区美しが丘1丁目の企業社宅跡地の土地利用転換に際し、地域に必要と考えられる機能の誘導手法を検討し、地区計画の策定に着手しました。

また、青葉区美しが丘2丁目では、企業用地の土地利用転換を踏まえ、次世代郊外まちづくりの活動拠点の整備を検討しました。

6. 公的資源の新たな活用の仕組みづくり

－ 健康・移動・教育・防災等の推進 －

モデル地区内の中学校とのこれまでの取組成果や住民創発プロジェクトで培った地域住民との連携を生かし、相互に成果を享受し発展する「地域連携プログラム」を推進しました。

平成28年3月には、美しが丘中学校2年生（当時）による発表会「次世代郊外まちづくり シビックプライド ～美中生が考える 明日のわがまち～」を開催し、シビックプライドの醸成と次世代のまちづくりの担い手育成につながりました。



美しが丘中学校「職場体験」授業の様子

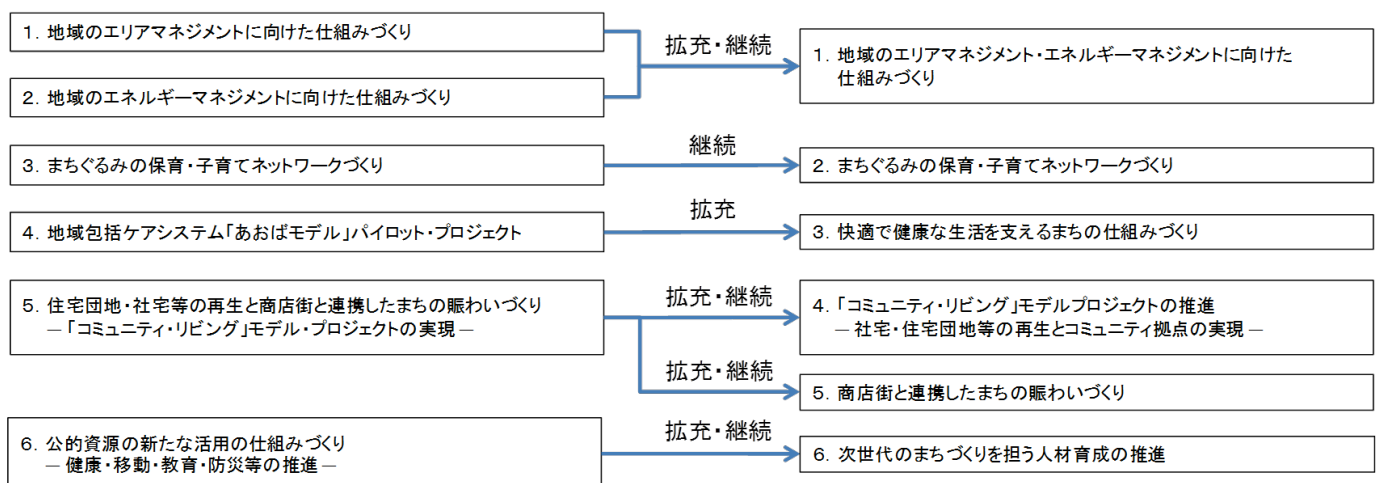


美しが丘中学校「発表会」の様子

<参考> リーディング・プロジェクト（2015）と（2016）の関係

リーディング・プロジェクト（2015）

リーディング・プロジェクト（2016）



【別紙２】 コミュニティ・リビングの概要

コミュニティ・リビングとは、郊外住宅地の歩いて暮らせる生活圏の中で、暮らしの基盤となる住まいや住民の交流、医療、介護、保育や子育て支援、教育、環境、エネルギー、交通・移動、防災さらには就労といった様々なまちの機能を、密接に結合させていく考え方です。大規模なコミュニティ・リビングは、多世代かつ多様な住民が交流し、活動する地域のリビングルームであり、郊外住宅地の中の暮らしと住まいの拠点となります。

コミュニティ・リビングを実現していくことによって、自分の住まいから歩いていける距離に必要な暮らしの機能が揃うことになり、多世代の住民の暮らしや交流・活動を支えることができるようになります。また、地域住民が気軽に集まる場ができ、住民の交流や活動も活発になることが期待できます。

